

## 稲城市新文化センター基本構想策定への協力報告（その1）

### — 市民参加ワークショップ活動について —

三 戸 美代子

#### Report for Preparing Conceptual Planing of Inagi Culture Center (Part. 1) — Workshop of Public Involvement —

Miyoko MITO

#### I. はじめに

本報告は、平成15年度より稲城市教育委員会生涯学習課の依頼により活動している、若葉台駅前に建設予定の（仮）稲城市新文化センター計画基本構想作りへの活動の一つとして、駒沢女子大学空間造形学科の学生とともに企画運営したワークショップについての報告である。

#### II. （仮）稲城市新文化センター計画とは

##### 1. 計画の経緯と市民参加の目的

稲城市ではこれまで、文化センターを下記の5館建設してきている。稲城市の文化センターは、中学校区に1館を設置する計画の中で今日に至っており、教育と福祉の機能を持った施設として位置付けることが稲城市の特徴となっている。

- ・昭和48年6月 中央文化センター（東長沼）
- ・昭和50年5月 第二文化センター（矢野口）
- ・昭和54年 第三文化センター（平尾）
- ・昭和58年5月 第四文化センター（大丸、押立、東長沼の一部）
- ・平成4年 城山文化センター（向陽台）

さらに平成13年から22年までの第三次長期総合計画として、『坂浜、長峰、若葉台を利用圏と

する「新文化センター」の建設』を掲げており、これを（仮）稲城市新文化センター計画と呼ぶ。この建設については、生涯学習の拠点として、図書館、児童館を含むとしているが、新たに整備される公共施設については、利用者の立場から使いやすい施設とするため、計画作りの段階から施設の内容、運営に関して市民の声の反映に努めると述べられている。

##### 2. 建設計画地

建設計画地は、現在「街づくり館」の建つ若葉台駅前である。（図1、図2）

文化センターが駅前に建設されるのは市内でもはじめてのことであり、バスや鉄道などの交通の利便性が良いだけでなく、市として課題となっているホール機能や中高生の居場所などの充実や、稲城市のシンボリックな建物としても期待される。

##### 3. 予定される主な施設および規模

（仮）新文化センターに予定される施設として稲城市第三次長期総合計画の中では、

- ・コミュニティーや生涯学習の拠点
- ・図書館（地域館）
- ・児童館（地域館）

の施設や機能について明記されている。このほかに、ホールや出張所を想定した場合、2、

500～3,000㎡の規模が考えられる。

#### 4. 建設スケジュール

平成15年度 基本構想作り PFI 導入検討  
平成16年度 基本計画・基本設計  
平成17年度 実施設計・建設工事  
平成18年度 建設工事  
平成19年度 4月オープン予定

### Ⅲ. 駒沢女子大学活動概要

#### 1. 駒沢女子大学の協力について



図1. (仮)新文化センター建設計画敷地

市民参加のまちづくりを進めていく方法に「ワークショップ」がある。この方法は多くの人の共同作業を通じて固定概念にとらわれない発想と新しい解決方法を見出してゆくことが可能であると言われている。参加者（住民・行政・企業など）にとっては、自分の立場や視点を見直す機会でもあり、自分の意見を主張する一方で、多様な人々の意見を知ることのできる機会でもある。

ワークショップにおいては、進行役（ファシリテーター）や専門家の存在、また、幅広い層からの参加者が重要となる。このため、平成15年4月に、駒沢女子大学空間造形学科稲垣教授への協力依頼があり、稲垣教授とともに、空間造形学科2年生有志十数名、三戸講師が協力することとなった。

#### 2. H15年度活動概要

平成15年度は、市民参加によるワークショップを通して、基本構想の素案づくりを目標とし、下記の活動を行なった。なお、ワークショップでの活動内容や結果については、次章で詳しく説明する。ワークショップでは、行政の計画にとらわれず、自由な発想で市民が本当に望んでいる施設がどのようなものなのか、可能な限り引き出すことを第一の目的とし、さらに参加市民同士の交流により新たなコミュニティが形成されるという副次的効果にも期待された。

ただし、ワークショップから得られるのは志望して参加してきたごく少数の意見であり、この結果が全てではないことに留意すべきである。



図2. 計画地周囲の眺め（180度合成）



図3. 既存施設見学会の様子

また通常、市民参加によるワークショップを企画・運営するには相当の準備期間とスタッフが必要とされるが、年度内で実施可能な範囲ということで、市民の声を吸い上げる機会としては、回数、方法などともに、十分でないということも付け加えておく。

・ 6月10日（火） 既存施設見学会（図3）

参加者：学生15名 稲垣教授 三戸講師  
稲城市職員

見学場所：計画地（現「まちづくり館」）周辺  
稲城市民体育館 城山文化センター 第二文化センター

\*駒沢女子大学の学生は全員市外から通学しており、稲城市の既存施設や地理的な基礎知識がないので、既存施設を見学させていただいた。職員の方々に丁寧な説明していただき、現状の把握と望まれる施設について考察した。

・ 8月9日（土） 第1回ワークショップ

参加者：市民 17名 学生 8名 稲垣教授  
三戸講師 稲城市職員

場所：若葉台まちづくり館

主な内容：稲城市職員による（仮）新文化センター建設についての経緯説明 自己紹介

・ 9月27日（土） 第2回ワークショップ

参加者：市民 27名 学生 8名 稲垣教授  
三戸講師 稲城市職員

場所：駒沢女子大学住生活館

主な内容：KJ法によるグループ議論

・ 10月11（金）～13日（日） りんどう祭展示

場所：駒沢女子大学大学館2階

主な内容：ワークショップパネルと計画地模型展示

\*りんどう祭では、既に終わっている2回のワークショップのパネルと、ワークショップの準備と平行して製作していた、計画地周辺の敷地模型を展示した。

・ 11月15日（土） 第3回ワークショップ

参加者：市民 19名 学生 8名 稲垣教授  
三戸講師 稲城市職員

場所：稲城市総合体育館ミーティングルーム

主な内容：カードを使ったグループ議論

・ 11月上旬～ 中学生へのアンケート案作成

ワークショップへの中高生の参加者がなかったことにより、中学校へのアンケート依頼を検討し、アンケートの素案（図4）を作成した。

## 1、放課後の過ごし方について

月	①部活動	②塾や習い事	③友達と	④一人	⑤その他 ( )
火	①部活動	②塾	③友達と	④一人	⑤その他 ( )
水	①部活動	②塾	③友達と	④一人	⑤その他 ( )
木	①部活動	②塾	③友達と	④一人	⑤その他 ( )
金	①部活動	②塾	③友達と	④一人	⑤その他 ( )
土	①部活動	②塾	③友達と	④一人	⑤その他 ( )

## 2、③、④と答えた人は主にどこで過ごしますか（複数回答可）

①学校	②文化センター	③図書館	④公園
⑤本屋	⑥商店街	⑦ファミレス	⑧山や川辺など
⑨友達の家	⑩自宅	⑪その他 ( )	

## 3、新文化センターに中高生のためのスペースができたならそこで何をしたいですか（複数回答可）

①友達と雑談	②スポーツ ( )	③バンドの練習
④読書	⑤勉強	⑥ビデオ鑑賞
⑦仮眠	⑧その他 ( )	

## 4、中高生のスペースには何が必要ですか

①コンピューター	②ビデオ	③机といす	④雑誌
⑤ソファ	⑥畳コーナー	⑦トランプ等のゲームセット	
⑧自動販売機	⑨カウンセリングコーナー	⑩その他 ( )	

## 5、利用したい時間帯（複数回答可）

平日	①～15：00まで	②15：00～18：00	③18：00～21：00
	④21：00以降		
休日	⑤10：00～12：00	⑥12：00～15：00	⑦15：00～18：00
	⑧18：00～21：00	⑨21：00以降	

## 5、新文化センターへの要望をお書きください。

図4．中学生へのアンケート案

#### IV. ワークショップ報告

##### 1. ワークショップ参加者のグループと属性について

ワークショップへの参加は市の広報で募り、事前申し込みが基本であるが、当日参加も受け付けるため、参加者の属性（年齢・性別・地区）を前もって把握しておくことは不可能であった。そのため、各グループにできるだけ多くの属性が含まれるように事前におおそのグループ分けを行なっており、当日に調整を行なうという方法でグループを決定した。また、参加者は回を重ねるごとに増えていったので、3回のワークショップとも異なるグループとなった。

参加者には、気軽に参加してもらいたいという意図から、あまり詳しい聞き取りなどをせず、表1のように年代で色分けしたネームプレートに地区と名前を書き込んで、身に付けてもらった。

参加者の内訳は表2のとおりである。

さらに、各回の参加者を男女別および地区別にクロス集計したものが下記表3の通りである。

##### 2. 第1回ワークショップ

表1. 参加者の分類

年代	色
中高生（男女問わず）	白
20代 勤労者（男女問わず）	緑
30代～50代 勤労者（男女問わず）	黄色
20代～50代 専業主婦	ピンク
60代以上（男女問わず）	青

表2. 各回の参加者内訳

	1回目	2回目	3回目
中高生（男女問わず）	0	0	0
20代 勤労者（男女問わず）	8	9	9
30代～50代 勤労者（男女問わず）	6	11	9
20代～50代 専業主婦	8	7	5
60代以上	3	8	4
	25	35	27

参加者：市民 17名 学生 8名 稲垣教授 三戸講師 稲城市職員

場 所：若葉台まちづくり館

目 的：（仮）新文化センター建設にむけての基本事項を参加者に理解してもらう。

次回以降のワークショップの共同作業が潤滑に進めるような、和やかな雰囲気作りをする。

進 行：1）開会挨拶

2）文化センター建設に向けての基本的事項について

3）建設用地とニュータウンの街づくり計画について

4）既存文化センターの運営状況と施設概要について

5）基本構想づくりのスケジュール

6）ワークショップ

①自己紹介

②グループ討議

テーマ：「新しい文化センターに望むこと」

第1回ワークショップは、台風の中多少開始は遅れたものの、事前申し込みがあった方のほとんどに参加いただいた。

初回ということもあり、まずは（仮）新文化センター建設についての経緯等を市職員から説明いただくことに、ほとんどの時間が割かれた。最後に参加者の自己紹介を兼ねて、グループ内

表3. 参加者地区別性別クロス集計

	1回目		2回目		3回目	
	男	女	男	女	男	女
坂浜	0	0	0	1		
向陽台	1	2	1	2	1	2
長峰	2	2	1	3	1	3
若葉台	4	5	8	9	3	6
大丸	0	1	0	1	0	1
その他	0	0	0	1	1	1
駒沢	0	8	0	8	0	8
合計	7	18	10	25	6	21

での簡単な討議を行なった。テーマは「新しい文化センターに望むこと」としたが、今回はテーマに沿った討議がされることよりもむしろ、次回のワークショップに向けて参加者同士が話しやすい雰囲気になることが目的であった。この討議は短時間であったが、駒沢女子大学の学生や教員、市職員の方々も加わって積極的な意見交換がなされた。特に市民からは、新しい文化センターについて大きな期待が寄せられていることがわかった。その一方で、立場などが異なる市民が希望する事柄は、かなり幅広く相反するような意見であった。

グループ討議で参加者から挙げられた、主な意見は下記のようなものであった。

「(仮) 新文化センターに望むこと」

- ・新文化センターの“新”という意味を良く考えて独自性を持たせたい。
- ・最低限必要なものだけでなく、プラス  $\alpha$  を持たせたい。
- ・若葉台駅前のシンボルとなり、かつ周囲と調和した外観。
- ・若葉台小のように利用者から人気が出るように、外観デザイン、運営に特色を出す。
- ・この街に住み続けられるよう、良い街の中心的存在になるようにする。
- ・地域住民が集まり、繋がり合えるようにする。
- ・沢山の人が自由に気軽に使えるようにする。
- ・申し込み方法、制限の見直しをして使いやすく。
- ・インターネットで施設予約・図書貸し出し予約が出来るようにする。
- ・サークルに所属しない個人でも予約なしでくつろげ、利用できるようにする。
- ・コミュニティ活動の充実。
- ・現役会社員が多い地域の実情を踏まえ、夜間・土日祝日の開館を実施する。

- ・基本計画・基本設計の各段階で、地域住民と行政が共同で案を検討していく。
- ・市民参加の運営。
- ・大・中・小様々な規模の市民講座・市民セミナーが出来る施設、設備の充実。
- ・大きなイベントのできるホールがないので大きいホール。
- ・和太鼓の練習できる場所。
- ・大スクリーンに景観を映して講演会できるようにする。
- ・多機能であり、専門性も備えたホール。
- ・図書館の充実。
- ・中学生の居場所づくりをする。
- ・子供たちのやってみたいことを支援する。
- ・オープンカフェを入れ、立ち寄りやすい雰囲気にする。
- ・街の模型を置き地域の全体像が見渡せるように。
- ・全面ガラス張りのアトリウムにして明るくオープンな雰囲気を出す。夕暮れ後も周辺が照らされ、遊歩道付近の防犯効果になる。
- ・環境との共生、太陽光・風力・雨水利用。
- ・バリアフリー
- ・エネルギーの再利用
- ・緑化建築
- ・館内に森林でモニタリングされている野鳥の声をリアルタイムで聞けるようにする。

### 3. 第2回ワークショップ

参加者：市民 27名 学生 8名 稲垣教授 三戸講師 稲城市職員

場 所：駒沢女子大学 住生活館

目 的：KJ法によるグループ議論によって、参加者の意見をできるだけ引き出す。

共同作業によって主観的にならずに討議をしながら、グループでの決定ができるようになる。

#### KJ法について

数人のグループ議論を進めるのに、KJ法は



図5. 第1回ワークショップ風景



図6. 第2回ワークショップ作業風景

広く知られている方法で、各自の頭の中にあるぼんやりとして体系立っていない意見の断片を浮かび上がらせることができる。特に話題が抽象的で捉えどころの無い場合や、テーマの理解にばらつきがあったり、参加者が先入観や思い込みにとらわれていたりする場合などに有効な方法と言える。

方法としては、最初に各自がテーマについて思いつく意見をすべて、1つにつき一枚のカードへ記入したものを、グループ内で読み上げ、分類しまとめていく。他人の意見を批判したり反論したりせず、全員の意見をすべて一枚の用紙にまとめようという作業に集中するため、グループ内での質問や意見の補足説明などが引き出されるようになる。

進 行：1) 開会・全体説明

2) カードに意見を記入する。

提案・要望など思っていることを自由に記入してもらう。カード一枚につき一項目で、具体的なことでも抽象的なことでも何でも書き込んでもらう。カードはあらかじめ年代別に色分けしたものを使用してもらうことで、あとで意見と参加者の属性との関係も読み取ることができる。集められたカードを以下、意見カードと呼ぶ。

3) 意見カードの読み上げ

自分の意見カードを一枚ずつ読み上げてもらい、他の人と内容が同じものは重ねて置きグループ分けしていく。

4) タイトルカードを作る。

何枚かのグループになっている意見カードの内容をひとまとめにできるようなタイトルカー

ドをつくる。このとき、タイトルカードに使用するマジックの色をあらかじめ決めておいた。

- ①施設（ホール、図書館など）；赤
- ②環境・緑化・自然など；緑
- ③運営・管理；黒
- ④イベント・講座など；ピンク
- ⑤雰囲気・印象など；紫
- ⑥中高生・子供・老人について；青
- ⑦設備；茶

#### 5) 意見カードのはりつけ

ここまでの作業で分類されてきた意見カードの関係性を考慮しながら、模造紙に配置して貼り付けていく。このとき、特に関連付けの必要なものは書き込みも入れる。

#### 6) 発表

各グループの代表による発表

結果：各グループでの発表の結果は下記図7の形成でまとめられた。

また、参加者の意見すべてをまとめたものは資料としてデータベースを作成した。この意見の全てを主な項目ごとに分類した意見数は、表4の通りである。また、これらの項目別にどのような意見が多かったかをまとめたものが図8～16である。

参加者にとって KJ 法は初めてだったが、前回到引き続き参加した人も多く、和気あいあい

とした和やかなムードのなかで進められた。A, B, C, D 4 チームに分かれ、チームごとに全員が10枚以上のカードに意見を書き込み解説しながら並べたので、カードの言葉の意味もお互いに理解することができ平等に意見を反映することが出来た。グループ分けの段階では忌憚のない意見が出され、自ずとまとめ役が現れ各チームの代表として発表した。

内容はホール、図書館、運用に関する意見が多かったのは予想どおりだったが、環境、デザイン、中高生の居場所に関する意見も多く、現状をしっかりと把握し、地域密着型の独自性のある文化センターが望まれていることが伺える。いつでも、一人でも気軽に寄れる身近な存在と

表4．項目別参加者の  
意見数

項目	意見数
ホール	52
図書館	55
環境	37
運営	44
イベント	16
中高生の居場所	26
乳幼児から小学生	20
喫茶などの施設	89
デザイン・雰囲気	32
合計	371

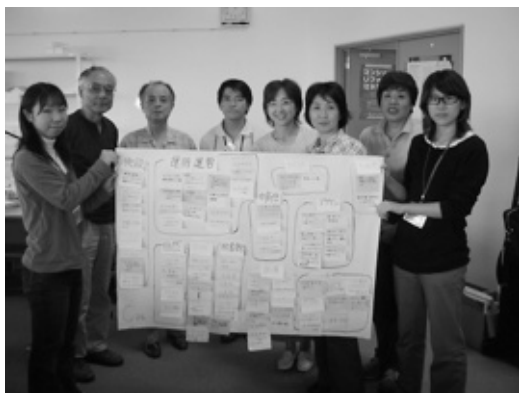


図7．第2回ワークショップの各グループまとめ



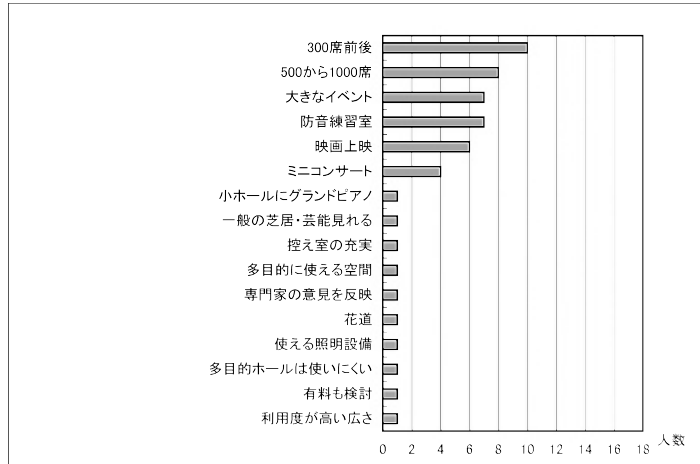


図8. ホールに関する意見

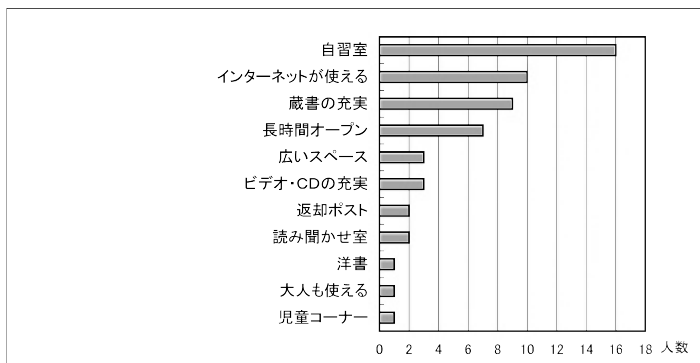


図9. 図書館に関する意見

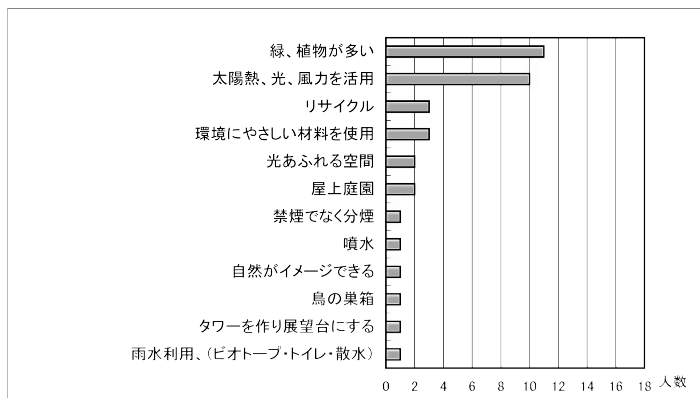


図10. 環境に関する意見

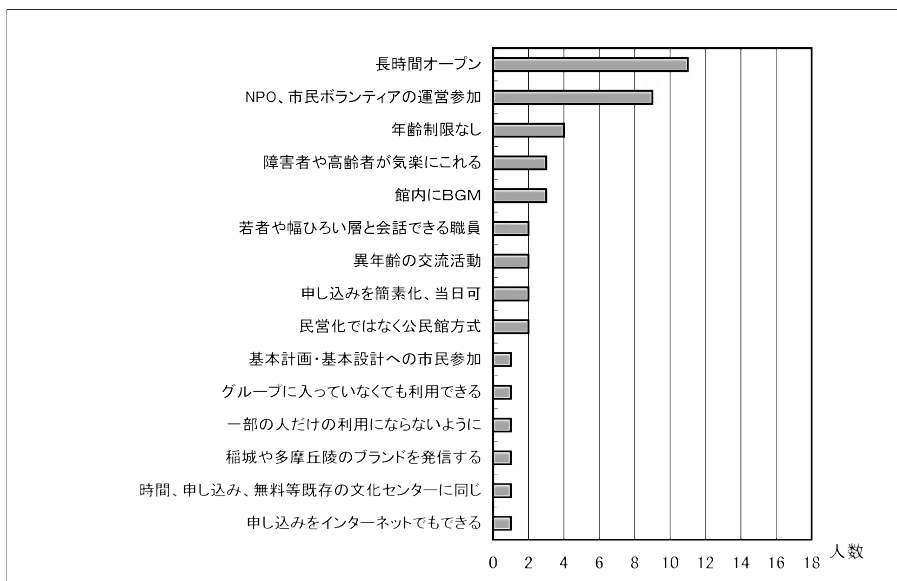


図11. 管理・運営に関する意見

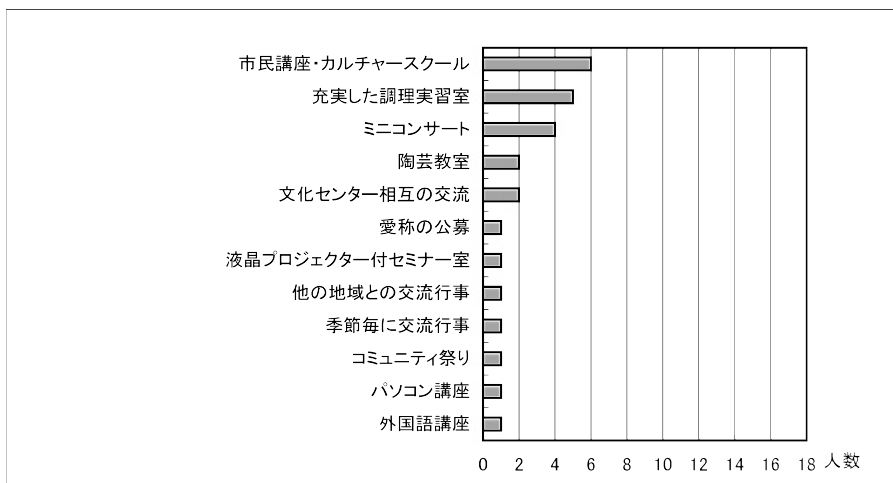


図12. イベントに関する意見

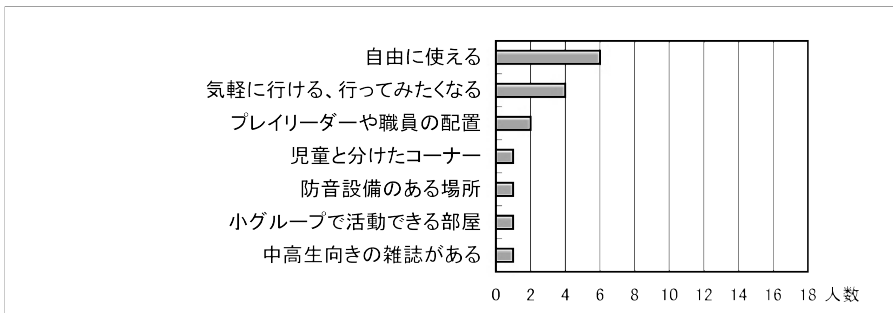


図13. 中高生の居場所に関する意見

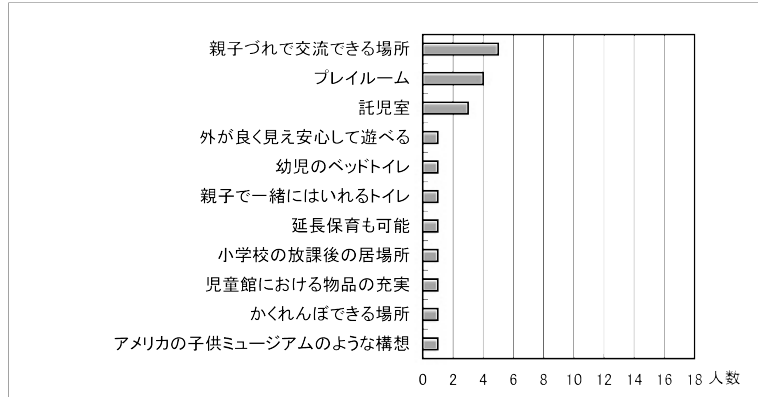


図14. 乳幼児から小学生に関する意見

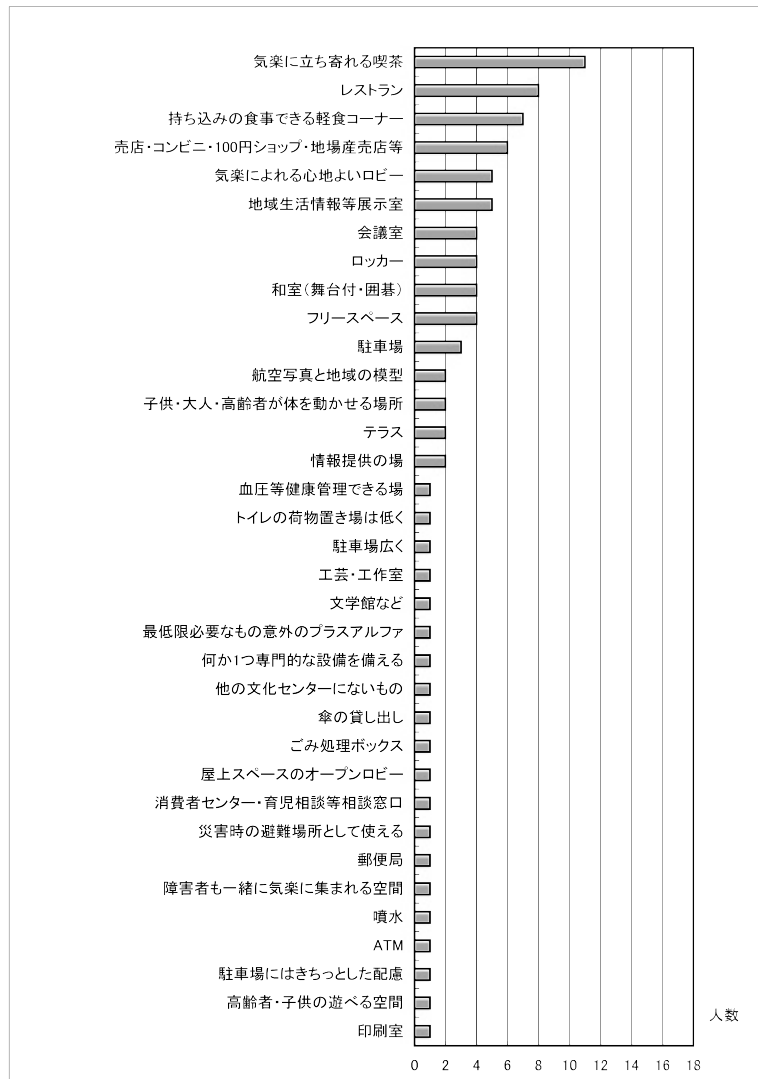


図15. レストラン・喫茶などその他の施設に関する意見

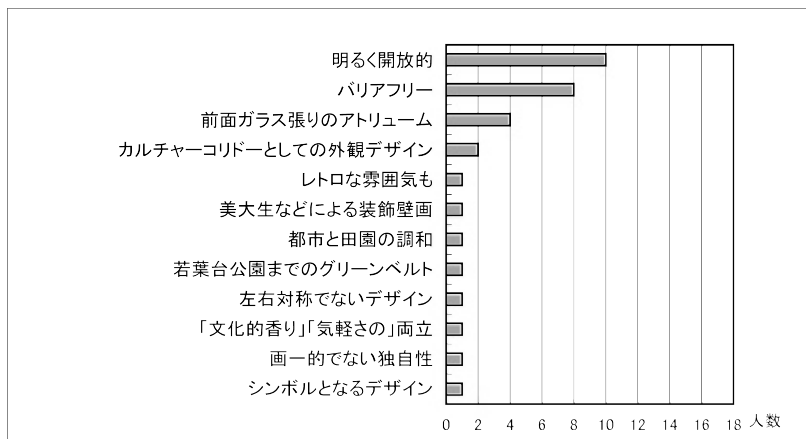


図16. イメージ・雰囲気に関する意見

して位置付けられ、かつ街のシンボルとなる存在が要求されている。

意見カードを属性とクロスさせてみることも予定していたが、参加者数と属性の関係が均等でなかったために属性とクロスする統計的意味がないと判断した。

意見カードは次回のワークショップに使用するために、大きなカテゴリーを示すテーマカードと部分詳細を示すイメージカードに分類した。

#### 4. 第3回ワークショップ

参加者：市民 19名 学生 8名 稲垣教授 三戸講師 稲城市職員

場 所：稲城市総合体育館 ミーティングルーム

目 的：カードを使ったグループ議論により、多くの希望要件の中から、参加者個人として、またはグループとしての優先順位を認識する。

##### カードを使ったグループ討議

参加者から積極的に意見がでなくてしらけてしまったり、一部の人の意見が場を支配してしまったり、レベルのまったく異なる様々な意見が入り混じって議論がかみ合わなくなってしまうようにするための方法として考えられたもの。短時間に集中して議論を深め結論を得るためには、参加者が対等に話し合える情報の提供

が必要になる。これが事前に基本的な考え方を整理した上で、その課題に対するできるだけ幅広い代表的な考え方を簡潔に表記したカードであり、参加者はこのカードを選びながらグループの意見をまとめていく。カード選びも最初に二人組（または三人組）で選んでから、グループ内でさらに選びなおすという形式をとるので、参加者個人がまず自分の中で優先順位が整理でき、グループとしての総意を導きやすくなる。

進 行：1) 開会

2) 第2回ワークショップ集計結果報告

3) 全体説明

4) カード選び

##### ①テーマカード（表5）

第2回ワークショップで得られた参加者の意見から、(仮)新文化センターのテーマとなりうるような意見を準備した。

このカードからまず2人一組で3枚を選びシートに貼る。カードの文章はかなり幅広いためこれに固執しないよう、また、一部を修正するなどの工夫を促す。また、用意したカードに相当するものが無い場合は、白紙のカードに意見を書き込んでもらってもよい。

討議の後、グループ全体で3枚にしほりこみシートに貼る。

表 5. テーマカード

1	イベントから映画やミニコンサートもできるフレキシブルで利用度の高いホールのある文化センター
2	蔵書、ビデオ、CD が充実し、インターネットが利用でき情報収集の場となる図書館のある文化センター
4	太陽熱・光・風力など自然エネルギーを利用し、緑豊かで環境にやさしい工夫のある文化センター
5	障害、年齢の区別なく、だれもが利用しやすく、休日にも利用できる長時間オープンの文化センター
6	NPO や市民ボランティアが運営に携わる参加型文化センター
7	明るく開放的で街のシンボルとなるようなデザインの文化センター
8	中高生が気軽に利用でき、自由に使える居場所となる文化センター
10	地域交流イベントや市民講座が活発に開かれる文化センター
11	高齢者、障害者、乳幼児のいる家族も気軽に安心して利用できるフリースペースのある文化センター
12	レストラン、喫茶、売店、地場物産店、ATM、郵便局等公益窓口の充実した文化センター

## ②部分イメージカード（表 6）

①のテーマとして拾い切れなかった意見の中で、(仮)新文化センターができたとき、部分的なイメージとしてふさわしいものとなりうるような意見を、できるだけ幅広く項目ごとに選びだした。このカードからは、グループでえらんだテーマを踏まえて項目ごとに 2 枚選ぶ。①のテーマカード同様に、該当するものが無い場合は白紙のカードに書き込んでもらう。

さらに、項目としても加えたい意見などがある場合は、「その他」の欄を用意し記入する。

5) 各グループの発表

6) 写真撮影

7) アンケートについての意見

今回のワークショップには中高生の参加が無く、中高生には別途、アンケートを依頼することになった。そのアンケートのたたき台についても、参加者からの意見を伺った。

結果：各グループの結果は下記のとおりである。

このうち選択されたテーマカードが多かった順に整理したものが表 7 である。

また、部分イメージカードについても同様に整理したものが表 8 である。

これより、まず、一番に多かったのはホールに関するカード 1 で、ペアの段階でも 9 組が選

択しグループ討議の結果においても全てのグループが残していることから、参加者の多くがホールについては設置に期待を寄せていることがわかった。その内容を、部分イメージカードとして選ばれたものから探ると、設備面での充実と、あまり大きくなく利用度の高いホールや練習室などのスペースの利用についての希望が多いことがわかった。特にテーマカードの選択の段階で、「大きなホール」の「大きな」をあえて消しているグループもあり、ただ大きくて収容数があるというだけでは使い道に困るという意見が多くあったことなどが、印象的であった。

さらに、カード 5 「誰でも利用できて長時間オープン」というような内容については、ペアの段階でかなり多かったものの、このようなことが実現されるのは当然のことであるというような討議がなされたグループも多く、2 グループで残されるにとどまった。しかし、部分イメージカードの選択の際には、バリアフリーであることや、乳幼児、高齢者、障害者への配慮などについて、立場の異なる参加者同士がお互いに相手の立場にたって必要性を述べており、重要な要素であると思われる。また、管理や運営についても、開館時間の延長に伴う問題として、NPO あるいは市民ボランティアなどの参加の可能性も示された。

表 6. 部分イメージカード

ホール
<p>500から1000名を収容し大きなイベントも可能で、レイアウトによって幾通りにも使える大ホール</p> <p>300名程度収容のミニコンサートなどに気軽に利用できる小ホールや小会議室（控え室）がある</p> <p>音響設備や舞台設備・映画上映など専門的な利用が可能なホール</p> <p>体操やトレーニングルームなどスポーツ施設と共用できるホール</p> <p>ホールは必要ない</p>
図書館
<p>ビデオ・CD・洋書も充実した蔵書の多い図書館</p> <p>長時間オープン（休日・夜間）の図書館</p> <p>インターネット利用や、無線 LAN 設備などの設備が充実した図書館</p> <p>学習室や自習室、閲覧スペースの充実したゆったりした図書館</p> <p>読み聞かせのできる児童コーナーと、大人との棲み分けがされている図書館</p> <p>図書館は必要ない</p>
環境・緑化
<p>太陽熱・光・風力などクリーンエネルギー利用している</p> <p>環境にやさしい材料を選択している</p> <p>屋上緑化など植物がたくさんあり、自然がイメージできる</p> <p>雨水利用や、ビオトープ、噴水など水を有効に利用している</p> <p>ゴミやりサイクルに配慮し、リサイクル情報館としても機能する</p>
運営・イベント
<p>長時間オープン（休日・夜間）</p> <p>NPO が管理運営を行う、または市民ボランティアが運営に参加</p> <p>民営化ではなく公民館方式</p> <p>カルチャースクール（調理・語学）や市民講座が充実している</p> <p>お祭りやイベントなど、市民の交流が深まる催しが充実している</p> <p>インターネットなど申込みが簡単で、当日申込、個人でもできる</p>
中高生の居場所
<p>中高生が気軽にに行けるフリースペースがある</p> <p>中高生を受け止められるブレイリーダーや職員がいる</p> <p>中高生自身が施設利用申し込みもできる</p> <p>中高生が自習など個人の勉強をできる</p> <p>中高生に特化した居場所は必要ない</p>
子供・高齢者、ゆとり
<p>高齢者・障害者も気軽に安心して利用できる</p> <p>乳幼児とその両親も交流できるブレイルームや託児室などがある</p> <p>気楽に寄れる広いロビーなどゆったりとしている</p> <p>レストラン・喫茶室など軽食がとれる場所がある</p> <p>売店・地場物産店・ATM・郵便局などの公益窓口が充実している</p>

また、「中高生の居場所」に関してはテーマカードで5ペア、2グループが選択している。単にスペースが用意されるだけでなく、相談相手となるブレイリーダーの必要性があげられ、中高生の健全な育成に新文化センターが期待されていることが伺える。

次に図書館については、テーマカードとして

は結局2グループが選択したが、その中の意見としては大きく分かれている印象があった。1つは物理的に蔵書などが多い方がよいというもので、もう1つは書庫などに必要面積を割かれるより、自習室や閲覧スペースなどが多い方がよいというものであった。図書館の位置付けについては、新しく建設される中央図書館や既存



図17. 第3回ワークショップ風景

の図書館との連携もふくめて、検討すべきであると思われる。

また、テーマカードの選択の中で、本来テーマ性の強い環境への配慮も2グループで選択され、最近の環境問題への関心の強さが伺えるとともに、新しい街の駅前に新しく建設される文化センターということで、他の市にないようなものを造りたいという市民の希望も反映していると考えられる。

最後に、その他として特に女性の参加者から、テーマカードとしてもカテゴリに入りにくく、また、部分のイメージの中でも例示できなかった、和室、調理室、防音室が挙げられたことも、留意すべきである。

## V. ワークショップから得られた基本構想案

これまでのワークショップで得られた参加者の意見、特に第2回のグループ討議の結果、多くのグループがテーマとして選択したカードを中心に、下記の基本構想の案を導きだした。

### 1. イベントからミニコンサートまで利用度の高いホールのある文化センター

- イベントから映画やミニコンサートまで幾通りにも使え、気軽に利用できる。
- 音響設備や舞台設備・映画上映など専門的な利用が可能。

### 2. だれもが利用しやすく、長時間オープンの文化センター

- バリアフリーで高齢者や障害者が気軽に利用できる。
- 中高生が気軽に利用でき、相談に乗ってくれるブレイリーダーがいる。

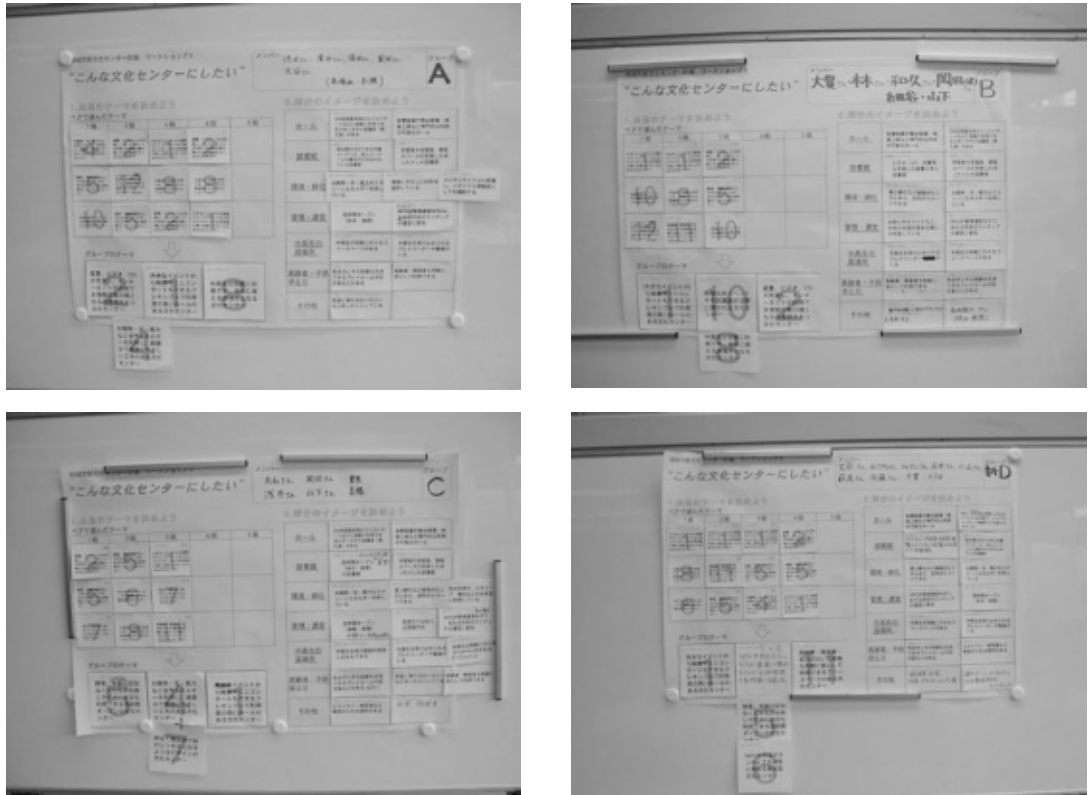


図18. 各グループの検討結果

表7. テーマカードの選択数

番号	テーマ	ペア	グループ
1	イベントから映画やミニコンサートもできるフレキシブルで利用度の高いホールのある文化センター	9	4
5	障害、年齢の区別なく、だれもが利用しやすく、休日にも利用できる長時間オープンの文化センター	8	2
2	蔵書、ビデオ、CDが充実し、インターネットが利用でき情報収集の場となる図書館のある文化センター	6	2
8	中高生が気軽に利用でき、自由に使える居場所となる文化センター	5	2
4	太陽熱・光・風力など自然エネルギーを利用し、緑豊かで環境にやさしい工夫のある文化センター	2	2
10	地域交流イベントや市民講座が活発に開かれる文化センター	3	1
11	高齢者、障害者、乳幼児のいる家族も気軽に安心して利用できるフリースペースのある文化センター	3	1
6	NPOや市民ボランティアが運営に携わる参加型文化センター	2	1
7	明るく開放的で街のシンボルとなるようなデザインの文化センター	2	1
12	レストラン、喫茶、売店、地場物産店、ATM、郵便局等公益窓口の充実した文化センター	2	0

- 乳幼児とその両親も交流できるプレールームや託児所が完備されている。
- NPOや市民ボランティアが運営に携わる参加型。

- 地域交流イベントや市民講座が活発に開かれる。

### 3. 情報収集の場となる図書館のある文化センター



表 8. 部分イメージカードの選択数

ホール	グループ
音響設備や舞台設備・映画上映など専門的な利用が可能なホール	4
300名程度収容のミニコンサートなど気軽に利用できる小ホールや小会議室(控え室)がある。	3
500～800名を収容し大きなイベントも可能でレイアウトによって幾通りにも使える大ホール。	1
図書館	グループ
学習室や自習室、閲覧スペースの充実したゆったりした図書館	3
読み聞かせのできる児童コーナーと成人コーナーとの棲み分けがなされている図書館	2
500～800名を収容し大きなイベントも可能でレイアウトによって幾通りにも使える大ホール。	1
ボランティアも参加して運営でき、長時間オープン（休日・夜間）の図書館	1
ビデオ・CD/洋書等も充実した蔵書の多い図書館	1
インターネット・学習室・自習室・閲覧スペースなど設備が充実した図書館	1
環境・緑化	グループ
太陽熱・光・風力などクリーンエネルギーを利用している	4
屋上緑化など植物が沢山あり自然がイメージできる	3
環境にやさしい材料を選択している	1
ゴミやりサイクルに配慮しリサイクル情報館としても機能する	1
雨水利用やビオトープ・噴水など水を有効に利用している	1
管理・運営	グループ
NPO が管理運営を行う、または市民ボランティアが運営に参加する	2
NPO や市民ボランティアが運営に参加する。市が責任を持つ。	2
長時間オープン（休日・夜間）。	2
長時間オープン（休日・夜間）。休日なし、当日申し込み可	1
お祭りやイベントなど市民の交流が深まる催しが充実している。	1
民営化ではなく公民館方式	1
中高生の居場所	グループ
中高生が気軽に行けるフリースペースがある。	3
中高生を受け止められるブレイリーダーや職員がいる。	3
中高生が気軽に行けるオープンスペースがある。	1
中高生を受け止められるブレイリーダーがいる。	1
中高生自身が施設利用申し込みもできる。	1
高齢者・子供・ゆとり	グループ
乳幼児とその両親も交流できるブレイルームや託児室などがある。	3
高齢者・障害者も気軽に利用できる。	2
乳幼児とその両親も交流できるブレイルームや託児室などがある。（有料で）	1
高齢者・障害者も気軽に利用できる。（バリアフリーなつくり、気軽・安心につながる）	1
気楽によれる広いロビーなどゆったりしている。	1
レストラン・喫茶室など軽食がとれる場所がある。	1
その他	グループ
和室・調理室・防音レッスン室・鏡	2
気楽によれる広いロビーなどゆったりしている。	1
専門知識があるボランティアを活用する。	1
長時間オープン（休日・夜間）	1
レストラン・喫茶など軽食をとれる場所がある。	1
誰もが入ってみたいくなる開放的なエントランスホール	1

- 自習室や閲覧スペースがゆったりと充実している。
- 読み聞かせのできる児童コーナーと成人コーナーの棲み分けがなされている。
- ビデオ、CD、洋書等蔵書が多く、インターネットの設備も充実している。

#### 4. 自然エネルギーを利用し緑豊かで街のシンボルとなる文化センター

- 太陽熱、光、風力、水等のクリーンな自然エネルギーを利用する。
- 屋上緑化など植物が沢山あり自然がイメージできる。
- 環境にやさしい材料や工夫がされ、リサイクル情報館にもなる。

#### 5. その他として

- 和室、調理室、防音室 等

### VI. 問題点と今後の課題

#### 1. ワークショップで得られた意見の位置付け

最初に述べたとおり、今回のワークショップの参加者は自ら志望してきた少数の意見であり、この結果が全てではないが、新文化センターに関心が高い人々の意見であることに留意すべきである。また参加者から、もっと多くの時間や回数を割いてほしかったという感想もあったように、今回の結果だけで市民の声を反映したというには十分でない部分もあると思われる。

しかし、実質的に2回の共同作業の結果としては、かなり多岐にわたる意見が得られ、また、参加者の意識の高さも印象に残った。

#### 2. モデルプランの提示

主催者側も参加者も、頭の中にあることだけで討議をすすめるのは、ワークショップの回数が進むごとに難しくなってくる。そのためには、何らかの絵を見ながら実際の使い方などを想像して討議するのが適していると考えられている。ここまでの参加者の意見を踏まえたモデルプラン

ンを提示してから参加者の意見を求めるような方式を、今回のワークショップで時間的に行なえなかったのは残念である。

#### 3. 既存の類似施設の収集

文化センターという名称にとらわれず、既存の施設で、類似の機能のある建物の事例を収集し研究する必要がある。特に良いと思われる事例があれば、行政と市民で見学会などを実施しても良いかと思われる。

### VII. 現在までの活動状況

平成16年6月には新文化センター建設協議会が発足し、協議会への協力という形で、平成16年にはさらに2回のワークショップを行い、その際には、駒沢女子大学提案として作成したモデルプランを提示し、市民の意見を求める機会が得られた。これらの活動を経て、稲城市から「(仮称) 新文化センター基本構想」が提出されている。この基本構想にも、今回のワークショップにより得られた市民の意見が数多く反映されている。さらに、これらを受けて平成16年11月～平成17年3月までに「(仮称) 新文化センター建設事業」にかかる基本計画作成及び事業手法検討調査が行われた。

これらの協力活動および調査については、稲城市が計画を公表する時期を見つつ、引き続き報告予定である。

#### 【参考資料】

世古一穂著『市民参加のデザインー市民・行政・企業・NPOの協働の時代』(1999年、ぎょうせい)

世田谷区まちづくりセンター「参加のデザイン 道具箱」(世田谷区まちづくりセンター)

世田谷区まちづくりセンター「参加のデザイン 道具箱 part 2」(世田谷区まちづくりセンター)